

結成60周年記念表彰式

平成22年度年次表彰式

社団法人岩手県PTA連合会結成60周年記念表彰式並びに平成22年度年次表彰式が8月1日(日)ホテルメトロポリタン盛岡において、岩手県教育委員会教育長(代理)生涯学習文化課佐藤公一様、岩手県市町村教育委員会協議会長川村登様をはじめ、多数のご来賓の臨席の下、総勢170余名の出席を得て執り行われた。



米澤慎悦会長挨拶

式では米澤慎悦会長の挨拶に続き、岩手家庭の風景／三行詩コンクール特別賞入賞者9名に表彰状と記念の盾が贈呈された。次に結成60周年記念表彰が行われ、功労賞と感謝状が贈呈



三行詩表彰

された。年次表彰式では6個人に感謝状と記念品が贈呈された。また団体表彰として30PTA、個人表彰65名の方々へ表彰状が贈呈された。表彰式終了後、引き続き祝賀会が行われ、相互の親睦をはかりながら、和やかな雰囲気の中に定刻通り17時30分に閉じられた。

結成60周年記念表彰

【功労賞】 敬称略 伊藤 学(前見舞金給付審査委員・元岩手県歯科医師会理事) 砂金文昭(本会前理事・前岩手県教職員組合中央執行委員長) 藤原由美

やっぱり家族っていいナ／いわて家庭の風景

三行詩コンクール 2010年度入賞作品の紹介

5回目を迎えた「やっぱり家族っていいナ いわて家庭の風景／三行詩コンクール」には各部門あわせて前回より364点増の4,548点(小学生の部2,600点、中学生の部1,744点、幼稚園児の部22点、保護者・一般の部182点)の作品が寄せられた。7月13日に審査会が行われ、以下の入賞作品が決まった。知事賞、教育長賞、県PTA連合会会長賞は、8月1日に行われた岩手県PTA連合会年次表彰式の席上で表彰された。

なお、文部科学省と日本PTA全国協議会が共催で募集期間7月1日から9月3日で「親子で話そう!家族のきずな・我が家のルール 三行詩コンクール」の実施通知があった。しかし本年度は年間計画に基づき「三行詩コンクール」募集が始まっていたため、今回は各部門上位5作品を文部科学省と日本PTA共催のコンクール推薦作品とした。

祝

第1回「楽しい子育て全国キャンペーン」
〜親子で話そう!家族のきずな・我が家のルール〜
岩手町立東部中の山崎文也君と宮古市立千徳小の菊地輝君の作品が全国から公募のあった5225作品の中から佳作13作品の中に選ばれました。

子(本会元会長) 小野寺明美(本会元会長・東北プロック研究会盛岡大会大会長) 松尾正弘(本会前会長・東北プロック研究会盛岡大会実行委員長) 川畑裕也(本会元副会長・県PTA研究大会釜石大会実行委員長) 神崎浩之(本会前副会長) 田村善博(本会前副会長) 岡山 侑(東北プロック研究会盛岡大会事務局長) 松川邦夫(元見舞金給付審査委員長・元岩手県小学校長会副会長) 故・内藤實(本会前事務局長)

由美子 小林公弥(花巻市) 藤田充久 藤原秀司(北上市) 佐々木勝智 八重樫則幸 高橋卓也 高橋聡(西和賀町) 佐々木浩輔(奥州市) 小林伸 渡辺剛 門脇秀朗 佐々木正美 小塚正人(金ケ崎町) 梅田敏雄(一関市) 神崎浩之 西城正雄 浦田靖彦(平泉町) 瀧澤利幸(藤沢町) 千葉仁(大船渡市) 今野秀治 佐々木健(陸前高田市) 佐藤伯一(釜石市) 澤田恭子 和田雅己(大槌町) 佐藤多可子(遠野市) 菊池信一 金田一文隆(宮古市) 中澤勤 宮本良雄 館昭一(山田町) 豊間根保志(岩泉町) 竹花純一(田野畑村) 吉塚公雄(久慈市) 對馬博貴 新里明彦(洋野町) 吹切功一(普代村) 森田幸一(野田村) 道上文明(二戸市) 田口庄司 高畑久壽(軽米町) 館坂久人(九戸村) 保大木信子(一戸町) 田中辰也

佐藤良二(前本会副会長) 神崎浩之(前本会副会長) 澤口 修(前本会副会長) (団体表彰) 敬称略 (盛岡市) 杜陵小父母と教師の会 津志田小PTA 見前中PTA 洪民中PTA A(八幡平市) 松尾中PTA A(岩手町) 南山形小PTA A(滝沢村) 柳沢小中PTA A(矢巾町) 矢巾北中PTA A(花巻市) 矢沢中PTA A(北上市) 二子小PTA A(江釣子中PTA A(奥州市) 胆沢愛宕小PTA A 衣里小PTA A(一関市) 厳美中PTA A 室根中PTA A 大原中PTA A(大船渡市) 立根小PTA A(陸前高田市) 米崎小PTA A(釜石市) 釜石東中PTA A(遠野市) 宮守小PTA A(宮古市) 小国小PTA A 崎山中PTA A(岩泉町) 中沢小PTA A(田野畑村) 田野畑中PTA A(久慈市) 夏井小PTA A 夏井中PTA A(洋野町) 宿戸中学校PTA A(二戸市) 石切所小PTA A(軽米町) 晴山中PTA A(二戸町) 鳥海中PTA A

澤浩佳 鈴木祐子 長澤秀則 一戸くに子(八幡平市) 田村真行 近江谷春彦(雫石町) 星征一(葛巻町) 村中千鶴子(岩手町) 大宮元(滝沢村) 三田地芳敬(紫波町) 戸塚昌弘(矢巾町) 八重畑榮喜(花巻市) 熊谷利昭 梅坂俊哉 松葉孝博(北上市) 高橋穩至 門脇佛志 平藤明(奥州市) 菅原勝一 千葉有早川正 千葉美喜夫 千葉慶悦(金ケ崎町) 佐藤良二(一関市) 鈴木文雄 熊谷孝広 佐藤文雄 中川修 小野寺俊哉 小野寺幸正 菅原伸行(平泉町) 菅原政俊 藤沢町 伊藤求(大船渡市) 鈴木康介 新田賢一(陸前高田市) 遠藤健司(住田町) 吉田秀昭 神田謙一(釜石市) 澤口修 佐々木昌貴(大槌町) 田中盛(遠野市) 佐々木晶士(宮古市) 佐々木克明 坂下昭弘 古館誠司 長谷川孝広(山田町) 上林浄(岩泉町) 合砂哲夫 菊地辰美(田野畑村) 三浦明治(久慈市) 谷地敏和 大澤守 田村善博(洋野町) 東井千明 橋本久(普代村) 高屋敷久人(二戸市) 沢内真申(軽米町) 圃田健治(九戸村) 上山昭一(二戸町) 大平四郎 坂下嘉美

岩手県知事賞(2作品)

◆滝沢村立篠木小学校 四年 畠山 翔聖
家族みんなで入るお風呂
いもうとがふえて ぎゅうぎゅう
せまいねっていいながら みんなでゆでたこ

◆岩手町立東部中学校

三年 山崎 文也
大会が終わって「オレのシユートどうだった」と聞いた。
「へたくそだった」と兄、「まあまあかな」と父はいう。
くやしけれど、また聞きたくなるんだよなあ、家に帰ると。

◆教育長賞(4作品)

◆盛岡市立見前小学校 一年 中野 颯馬
ばあちゃん ぼくねなんにもすることがなくて
ぼうつとしていてとせなかにくもがいるみたいにな
むず むずしてかゆくくなるよ

◆一関市立大東中学校

二年 佐藤 菜樹
何かあった時 怒る時 いつも口うるさいお母さん
お母さん言ってたよね 怒られてるうちが花だよって
怒られなくなったらきつと その花はほんじょうよね

◆奥州市立南都田幼稚園

五歳 山田 侑佳
おかあさん
このごはん おいしいよ
おかあさんの てのあじがする

◆保護者・一般

久慈市 ニツ神 麻衣子
あの頃と変わらぬ寝顔 髪をなで
叱りすぎたと懺悔する
本当は 元気でいたら 何もいらな

◆県PTA連合会会長賞(3作品)

◆盛岡市立仙北小学校 四年 藤澤 遼樹
ぼく、くつのサイズがお母さんと同じになったよ
お母さんが早くお仕事から帰りたい日は教えてね
ぼくのまほうのくつをかしてあげるからね

◆一関市立一関中学校

二年 荒館 香純
帰り道、おじいちゃんが迎えに来てカバン積んでくれた。
自転車を押す背中が何だか切ない。
「ありがとう」と言えないもどかしさ、これって成長の証しかな。

◆保護者・一般

奥州市 伊藤 由美子
仕事帰りのすごい夕焼け空
見せてあげたくて 家に電話した
「きれいだねえ」って素直な言葉いつまで聞けるかなあ



◆盛岡市立好摩小学校 四年 和山 歩加
休みの日、お父さんといっしょにキャッチボールしたら「じょうずになったな」だって。

◆宮古市立千徳小学校 一年 菊地 輝
はんたいのとなりは おとうさん
あさまでいっしょに おやすみなさい

◆盛岡市立大新小学校 五年 佐藤 佑亮
宿題は自分の部屋でやりなさい
父に言われてムツとして
結局最後は居間でする

◆奥州市立胆沢愛宕小学校 六年 渡辺 凌平
ダイエツトしている母。
でもほくは、ぼつちやりの母が好き。

◆一関市立一関小学校 六年 三浦 結花
家族とは血がつながっている人だと思っていた。
だがしかし心をかよわせている人だと分かった。
人と言存在は、だれかきつとつながっていたい存在だ。

◆岩泉町立門小学校 四年 山岸 彩乃
毎日まいにち、私とけんかはっかりするけど
私がおににいるのはお兄ちゃんのおかげ
流れ星に妹がほしいうてお願いしてくれたから

◆盛岡市立杜陵小学校 五年 浅沼 拓斗
お母さんきゅつとされるとお日さまみたいにいいにおい
いつもほくのお日さまあつたかい

◆盛岡市立河北小学校 五年 熊谷 洋希
コン コン パカッ ジュウウ
お母さんのとくいな 目玉やき
おかわりするよ 朝ごはん

◆盛岡市立永井小学校 三年 小笠原 大也
「ただいま」と言うよ
「おかえり」と答える おじいちゃん おばあちゃん
ほくのおかえしは かたもみだ

◆紫波町立片寄小学校 一年 城取 楓
7にんかぞくのよるごほん
みんなそろってたべるとおいしいね
なんだか かぞくのあじがする

◆奥州市立佐倉河小学校 六年 石川 夏澄
歯みがきしながら かたならべ
「お母さんに 追いつくよ」と
鏡の前で せのびする

◆奥州市立羽田小学校 一年 佐々木 純名
うしろを見たらね、
お母さんは、ずっし手をふって見ていてくれたよ。

◆一関市立赤荻小学校 四年 千葉 悠生
家族みんなが ほくをおうえんしてくれる
がんばったね よかったね すこかったね
家族の言葉は ほくの やる気スイッチ

◆遠野市立遠野北小学校 四年 正部家 大輝
僕と母さんは鏡だよ
僕が笑うと母さんも笑う
僕が泣くと母さんも泣くよ

◆岩泉町立門小学校 四年 澤 美里
こまったとき心の中でお母さんをよぶ
すると、笑顔のお母さん。
会えないけれど「だいじょうぶ」と安心できる。

◆久慈市立宇部小学校 三年 中村 出海
ママからの「今度帰るよ」という電話
見えないのに、おもわずガッツポーズしてしまう

◆北上市立江釣子中学校 二年 小原 早織
最後の一本あまったアイス
それだけのためにジャンケン大会
そんな家族も大好きだ

◆山田町立豊根根中学校 一年 吉川 奈央
お父さんに 似てるって言われる
お父さんの前では ヤダって言うけど
本当は ちよつと うれしかつたりするんだ

◆盛岡市立城西中学校 二年 塚合 瑠華
つらい時、悩んでいる時
優しく待っている家族の笑顔
私の一番の特効薬

◆遠野市立宮守中学校 一年 伊藤 和貴
昨日、お母さん言ふた おまわりてくれる心配した
でも今日、お弁当を作ってくれた
帰ったらあやまるうかな

◆山田町立豊根根中学校 三年 芳賀 牧奈
いつのまにか 背筋をピンとはしています
あなたのくせです
わたしは母さんの背中を見て 生きています

◆花巻市立矢沢中学校 一年 浅沼 春香
顔も にあう服の色も 違うけど
「お姉ちゃんと同じだね」と
言われるのが一番うれしい

◆北上市立和賀西中学校 一年 狩野 千遙
心では分かってけど、はずかしくてなかなか言えないの一言
いつか、言えるといいなあ
「家族が一番好きだよ」って。

◆一関市立中里中学校 一年 田中 美沙
友達とけんかした あやまれなかった
お父さんがおこった はげましてくれて 勇気が出た
明日はかならず あやまるう「ありがとう お父さん」

◆一関市立中里中学校 二年 田中 美紅
わたしのお父さんは 少しシャイ
いつもムツとしている 本当はうれしくせに
母さんとけんかをして、ムツとお父さんらしいね

◆一関市立興田中学校 一年 菊池 允
「ただいま」「おかえり」のあいさつが、いつのまにやら
「腹へった夕飯だ」にかわった 我が家
部活で帰る遅くても、私帰ってから団圓卓で、いいよね

◆大船渡市立第一中学校 二年 新沼 南
「大嫌いだ」今までそれを何度思ってきたことだろう
「大好きだ」今までそれを何度思ってきたことだろう
いつもそばで支えてくれる 私の家族に対して

提言

地域活動って意外に楽しい

盛岡市 交通指導員 佐藤 輝夫

交通指導員として学んだこと

交通指導員を始めたのは青年会議所の活動に熱中し、少年補導員などの地域活動に目覚めた30歳代後半でした。ある先輩から「そろそろ地域のために活動する時期だよね。」と言われ、軽く「そうですね。」と答えたら次の日に交通指導員の申請書が届いていました。気がつけばそれから14年。

土日、夏季冬季などの長期休暇を除いてほぼ毎日毎朝、交通指導を続けています。通学途中に会う下小路中学校生や立哨場所の城南小の児童や盛岡二高生たちといつも「おはようございます。」と笑顔添えて挨拶を交わします。習慣と連続の力は大きく春の入学時には挨拶をしない中高生も夏頃には自分から挨拶をしてくれます。通勤途中の人

もみんな挨拶を交わしてくれます。子ども達との朝の挨拶で活力が出てきます。元気が出ます。「挨拶は魔法の言葉」です。

PTAの活動で

2000年に城南小PTA副会長を受けて会議に出席したとき女性50に対し男性2という比率に驚き、困惑しました。慣れるのには時間を要しました。折しも父親のPTA参加が叫ば

れていた頃です。当時の会長にその仕事を振られ、作ることにしました。しかし、どうにも親父の会というネーミングには抵抗感がある、ということ当初「お父さん出番ですよ委員会」という名前になりましたが、父親以外はダメなのか？という疑問から、おとうさん、おかあさん、おじいちゃん、おばあちゃん、

おじさん、おばさん、地域の人PTAを卒業した人の参加可能、ということ「出番ですよ委員会」が出来ました。

現在も新陳代謝を繰り返しながら40人を超える規模で推移しています。PTA活動を支援する一方でそれが地域の人のだという意識を持ち続けています。近年、社会情勢の変化により防犯対策の強化が求められていますが、城南小では、2007年に「ふれあいパトロール隊」を組織しました。各自治会町内会の役員有志の協力によって200名を超える組織が隣く間に出来上がったのです。

その年、褒め上手のスタイルガードリーダーの方から「盛岡市内で城南ふれあいパトロール隊に並ぶものはない」と言われる位大きな評価をいただきました。その大きな要因のひとつは子ども会育成会が形骸化せずに活動を続け、町内会との関係を保ち続けてこれた事が大きいのです。さらに出番ですよ委員会や保護者有志とも有機的に絡み合うことで学校と地域がともに

敷居が低くなり「挨拶運動」や「子どもの見守り」

◆大船渡市立大船渡中学校 三年 吉田 汐里
子どもはなかなか分らない 大人の苦労を大人はなかなか分らない 子どもの悩みを、でも、親子で分かる 自分たちの最高の愛を「ありがとう」って

◆大船渡市立綾里中学校 三年 伊藤 夢乃
顔を見ると 素直に言えないんだけど
ホントは いつも心の中で吠えているんだ
「ありがとう」って

◆大船渡市立綾里中学校 三年 佐藤 裕太
夜遅く、明るい電気と機械の音
目をこすりながら ジャージの穴をふさいでた
ありがとう おかあさん！

◆釜石市立釜石中学校 二年 葛西 流聖
お父さんは、めりはり
お母さんは、やさしさ
ほくの両親の自まんのよい所です。

◆宮古市立第一中学校 三年 中里 葵
「おはよう」と言えば「おはよう」と言ってくれる
「おやすみ」と言えば「おやすみ」と言ってくれる
これを「幸せ」っていうのかな

◆久慈市立久慈中学校 二年 中野 拓海
ことあるたびに「具合悪いの？」と聞いてくる
心配しすぎて困るけど
その心配が少しうれしい。

◆一関市立真滝幼稚園 四歳 佐藤 虹香
それにくもがないのはね
おじいちゃんが そらのうえで
くもを どっかにとばしてるとんだよ

◆久慈市 いなり保育園 四歳 宅石 結
お兄ちゃん 音読しようずだね
結もママも 覚えたよ
はやく 一年生になりたいな

に大きな役割をはたしています。その後4年が経ちますが勢いは衰え知らずです。

地域の力って本当にすごい

いじめは地域の力で防ぐことの出来る面があります。一例がスポーツ少年団の指導者に教育振興運動を理解してもらうことです。スポーツ少年団の中には学校現場が関わらない場合もあり、勝利のために教育よりは競争を強いる例があります。親子とも、その方向に進む傾向がありますが、スポーツ少年団の指導者が教育振興運動を理解していれば中学に進学した時に部活動でスポーツ少年団出身者と他校出身の生徒との間のいじめを防ぐことが出来ます。

また、PTAブロックを超えた学区内小中学校の交流も地域の教育力を高めるために必要だと考えます。小学校と中学校の先生の意識の違いや各小中学校PTAの考え方を互いに理解できるようにすれば中学入学時の子ども達にとって中一ギャップを乗り越える大きな力になると思います。

◆盛岡市 下川 祝子
心に、冷たい風が 吹いた日は
足早に帰っておいで
ふくふく笑顔の 家族のもとへ

◆盛岡市 荒澤 牧子
お兄ちゃんが、初めて取れた優勝旗。
鑿り多幸笑言ひ、溢るる涙を、家族を支えん藤利
おめでと、う 8年越しの一本勝ち。

◆盛岡市 菅原 登志子
思いがけなく、真つすく育っているね、と言われた
なんだか、思春期まっさかりの息子が、誇らしくった
親子の会話が多いおかげかな

◆宮古市 大浦 みどり
父が帰ってくれた取れた野菜で、どんな料理を作ろうか
野菜をおいしく仕上げたら、パパも娘もほら笑顔
何気ないおしやべりと、笑顔の食卓始まるね

◆盛岡市 下又 拓也
たくさん教えてくれてありがとう
悩んだときも助けてくれてありがとう
好きな釣り、また行こうね、お父さん

◆八幡平市 田村 和香
財布見ながら、つらいなあ、ため息つく私。
つい時こそ、ヨサコイライラと、踊った私。
そうだ、踊ってしまおう!!

◆一関市 佐藤 洋子
小学校最後の野球大会まであとわずか
喜びも悲しみも共にしてきた4年間が、今、涙で染みついていく
強い目差し下で、真つ黒に目輝けたの腕は、私達の誇りで。

◆陸前高田市 村上 洋子
私は産んだだけ、おばあちゃんが育てた息子が結婚するよ。
車椅子だつていじまない、右手が動かなくなつていじやない。
息子の晴れ姿、花嫁さんの笑顔、一緒にお祝いしよう。



盛岡ちびっこさんさ運営委員会の活動

「ちびっこさんさ」は今年23周年を迎えました。盛岡市の広報で小学生を中心募集しますが、市内全域の他に紫波、矢巾、滝沢からも参加し、毎年200名前後の団体となっています。ちびっこさんさ出身の子どもの大きくなって、ミズさんやミス太鼓に多数選ばれています。三、四歳児から小学校6年生迄という異年齢集団の構成のため、この中で育ち鍛えられる技術、勇氣、思いやり、判断力等は想像以上に大きいものなのです。これは子ども達の健全育成に極めて有効に働いているものと思っています。

「さんさ友だち」という言葉が子ども達の間でいつの間にか出来ていました。子ども達の世界観では他地域の子どもと友だちになるのは異文化の衝突でもありません。長年取り組んで思うことは規律ある子どもたちの相互交流に

多に貢献できたことや道具を大切にすること、丁寧な挨拶をすることを厳しく教える事が出来たこともありますが、母親を中心とした保護者に対して伝承文化や和の文化も三世代を通じて継承できることです。針や糸を持ったことのない母親が子どものために浴衣の肩揚げ腰揚げや着付けをしなければならず、必要に迫られて自分の親や地域のお年寄りに方法を聞くことにより交流が生まれ、地域の活動に取り組みはじめるという例も見られます。

ね、地域活動って、意外に楽しいです。これからも、何かの活動に取り組もうと考えている人の背中を押すことが出来たらうれしいですね。

佐藤輝夫氏
プロフィール

1959年生まれ。
2003年～盛岡市立城南小PTA会長。
2004年盛岡市PTA連合会理事。
2009年下小路中PTA会長。
1996年～盛岡市交通指導員。
1997年～盛岡青年会議所副理事長。
2001年～盛岡ちびっこさんさ運営委員会会長。
2010年～盛岡商工会議所青年部会長
まるせい呉服店代表